

事前評価個表

事業名	森林環境保全整備事業	事業計画期間	平成30年度～平成34年度																
事業実施地区名 (都道府県名)	<small>おおいたせいぶ</small> 大分西部森林計画区 (大分県)	事業実施主体	九州森林管理局 大分西部森林管理署																
事業の概要・目的	<p>本事業は、大分県の西部に位置する日田市、九重町、玖珠町に所在する7.9千haの国有林野を対象としている。</p> <p>森林の現況は人工林4.3千ha（人工林率65%）となっており、主な樹種は針葉樹ではスギ・ヒノキ、広葉樹ではクヌギ・ナラ類・カエデ類となっている。</p> <p>人工林面積の約7割にあたる3.1千haが間伐の対象となる林分になっている。更に今後は、主伐の対象になる林分も増え、併せて更新面積の増加が見込まれることから、森林整備の重要性が高くなっている。</p> <p>本計画区は、水源かん養保安林が全体の89%に達し、下流の筑後平野及び福岡都市圏の水瓶として重要な役割を担っている。</p> <p>また、くじゅう連山一体の国有林は、阿蘇くじゅう国立公園に指定されており、渓谷や優れた森林景観など豊富な観光資源に恵まれ、登山などの森林レクリエーション・保健休養の場として多くの人に利用されている。また、森林資源を利用した木材加工業等も地域の重要な産業である。</p> <p>このため、森林の公益的機能が高度に発揮されるよう国土の保全、自然環境の保全、生物多様性の保全等にも十分配慮しつつ、森林吸収源対策として間伐に積極的かつ着実に取り組むとともに、林産物の継続的かつ計画的な供給により地域振興に寄与するため、資源の循環利用を行いながら多様で健全な森林の整備・保全を推進することが必要である。</p> <p>本事業では、伐採事業との一体的な実施や新たな林業技術の導入等による造林事業の低コスト化に取り組みつつ、間伐、更新等の森林整備及びその効率的な実施に必要な路網整備を実施する。</p> <p>・ 主な事業内容</p> <table border="0"> <tr> <td>森林整備</td> <td>更新面積</td> <td>109</td> <td>ha</td> </tr> <tr> <td></td> <td>保育面積</td> <td>2,322</td> <td>ha</td> </tr> <tr> <td>路網整備</td> <td>開設延長</td> <td>32.4</td> <td>km</td> </tr> <tr> <td></td> <td>改良延長</td> <td>9.2</td> <td>km</td> </tr> </table> <p>・ 総事業費</p> <p>2,752,269 (千円)</p>			森林整備	更新面積	109	ha		保育面積	2,322	ha	路網整備	開設延長	32.4	km		改良延長	9.2	km
森林整備	更新面積	109	ha																
	保育面積	2,322	ha																
路網整備	開設延長	32.4	km																
	改良延長	9.2	km																
費用便益分析	<p>総 便 益 (B)</p> <p>8,049,480 (千円)</p> <p>総 費 用 (C)</p> <p>3,072,291 (千円)</p> <p>分析結果 (B/C)</p> <p>2.62</p>																		
森林管理局事業評価 技術検討会の意見	<p>費用便益分析結果、森林・林業情勢等、事業の公益性を総合的に検討した結果、事業の実施が妥当である。</p>																		
評価結果	<p>・ 必要性： 水源の涵養、国土の保全及び地球温暖化防止対策などの公益的機能の維持増進並びに木材の安定供給に関する地域の要請に応えるため、事業の必要性が認められる。</p> <p>・ 効率性： 費用便益分析の結果から十分な効率性が認められる</p> <p>・ 有効性： 国有林の地域別の森林計画に即した事業内容であり、地域の特性を踏まえた計画的な森林整備により、森林の有する機能の発揮が十分図られることから、事業の有効性が認められる。</p> <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用便益分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に評価したところ、森林の重視すべき機能に応じた適切な森林整備が効率的に計画されていると認められる。</p>																		

別紙様式 7

便 益 集 計 表

事業名：森林環境保全整備事業

事業実施地区名：大分西部森林計画区

都道府県：大分

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養 ^{かん} 便益	洪水防止便益	1,653,977	
	流域貯水便益	462,753	
	水質浄化便益	1,080,145	
山地保全便益	土砂流出防止便益	1,756,139	
環境保全便益	炭素固定便益	342,336	
木材生産等便益	木材生産等経費縮減便益	225,921	
	木材利用増進便益	13,766	
	木材生産確保・増進便益	1,155,324	
森林整備経費縮減等便益	森林整備促進便益	1,359,119	
総便益 (B)		8,049,480	
総費用 (C)		3,072,291	
費用便益比 (B/C)	$B \div C = \frac{8,049,480}{3,072,291} = 2.62$		

